

第96期 中間報告書

2019年4月1日 >> 2019年9月30日



Contents

株主の皆様へ	P.1
セグメント別概況（連結）	P.3
トピックス	P.5
連結財務諸表	P.7
会社情報・株式情報	P.9

平素は格別のご高配を賜りありがたく厚く御礼申しあげます。

第96期第2四半期累計期間（2019年4月1日から2019年9月30日まで）における当社グループの業績について概要をご報告申しあげます。

当第2四半期累計期間の当社グループを取り巻く経営環境は、海外においては、米中貿易摩擦の影響がある中で、米国景気は個人消費に支えられ回復が続きましたが、設備投資等に弱さがみられました。中国景気は生産活動や設備投資の伸びが低下したこと等から減速傾向で推移し、東南アジア諸国も輸出の減速により低調に推移いたしました。

国内においては、公共投資は底堅く推移いたしました。海外経済の減速もあり、輸出を中心に弱さがみられ、民間設備投資も力強さを欠くなど、景気回復の動きに足踏みがみられました。

当社の既存顧客においても設備投資が抑制されるなど、厳しい状況が続く中で、当社グループといたしましては、受注の拡大に向けて新規顧客開拓や新製品の開発、更新需要の掘り起こしを推進してまいりました。利益の確保に向けては、高付加価値製品の販売に注力するとともに、生産コストの低減に向けた取組を行ってまいりました。

しかしながら、ロボット、工作機械、電子部品業界等、あらゆる分野で設備投資姿勢が慎重化している影響は大きく、モーション機器事業の売上減少による採算悪化及び新規開発案件の費用増加等により、前年同期に比べて利益が減少いたしました。

企業集団の連結業績につきましては、受注高は432億31百万円（前年同期比12.8%減）、売上高は390億15百万円

（同6.3%減）となりました。損益面につきましては、経常利益は2億14百万円（同88.6%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1億14百万円（同91.2%減）となりました。

このような状況ではありますが、半導体業界における市況回復を見込んで、昨年度よりクリーン搬送機器部門の工場拡張を進めるなど、今後の需要増加が期待できる分野については、研究開発も含めて必要な投資を着実に実施しております。

配当は継続的かつ安定的に実施していくことを基本としておりますが、当社グループの事業構造により、公共・社会インフラ等の設備関連機器をはじめとして、全体的に売上が下半期に集中する傾向であることから、期末配当として一括して実施し、中間配当については実施を見送ることいたしました。株主の皆様には誠に申し訳ない次第でございますが、何卒ご了承を賜りますようお願い申し上げます。

今後の当社グループを取り巻く経営環境は、海外においては、米国景気は堅調な個人消費により回復が続くとみられますが、設備投資の減速が懸念されます。中国景気は政府の下支え策の効果に対する期待はありながらも緩やかな減速が続くとみられ、東南アジア諸国においても各国の景気刺激策の効果期待されますが、引き続き輸出の減速により低調に推移すると予測されます。

国内においては、個人消費や公共投資が堅調さを維持し、景気は緩やかに回復すると期待されるものの、海外経済の不確実性の高まりから、民間設備投資の慎重姿勢が強まる懸念もあり、今後も先行き不透明感の強い状況が続くとみられます。

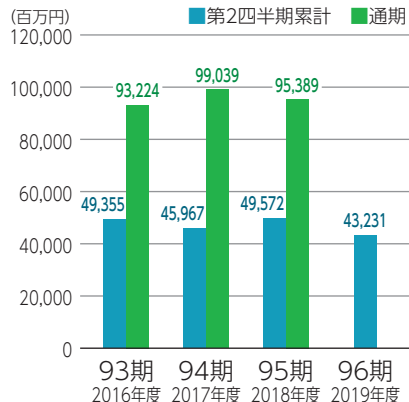
企業理念

「一歩先を行く技術」
「地球を大切に作る心」
「思いやりのある行動」

私たちはこの3つを大切に
人から宇宙まで

豊かな暮らしと社会の発展に貢献します。

受注高



このような情勢の中で当社グループといたしましては、潜在的な成長性が見込める海外の拠点を強化することや、技術者が顧客を積極的に訪問してニーズに迅速な対応をすることなどにより、新規顧客の開拓に取り組んでまいります。また、将来のニーズを見据えた新製品開発や、システム製品の比率を高めることにより受注拡大に注力してまいります。

利益率向上への取組としては、自動化等による製造ラインの効率化を行い生産性の向上を図ってまいります。また、いち早く新製品を上市するため、経営資源を最適に配分するなど開発マネジメントを強化し、より効率的かつ迅速な研究開発を推進してまいります。

当社グループは、中期経営計画「SINFONIA ABC 2020」の下、受注拡大に向け常にAggressiveな姿勢で挑み、人材育成など企業としてのBasicな取組を行い、Creativeな発想で新製品創出や先進技術を活用した新技術開発を推し進め、全社一丸となって強固な企業体質の構築に向けて邁進してまいります。

これからも、株主の皆様、顧客の皆様から評価していただけますよう、さらに企業価値を高め、成長し続ける企業集団となるべく、グループを挙げて努力を重ねてまいり所存でございます。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役会長

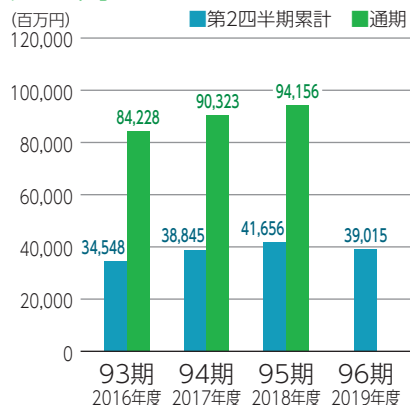
武藤昌三

代表取締役社長

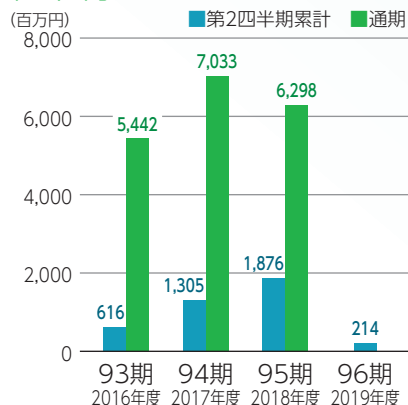
斉藤文則

2019年11月

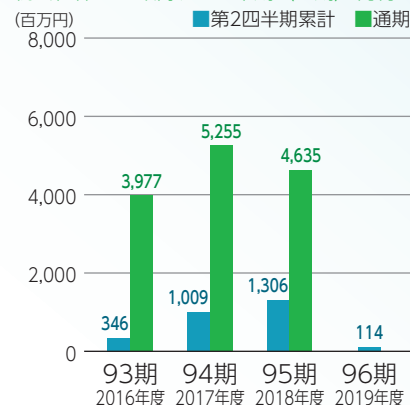
売上高



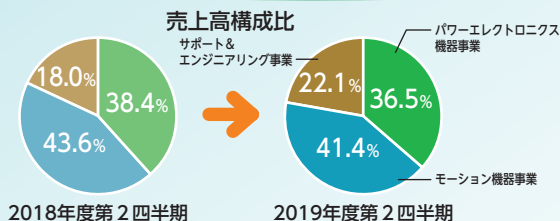
経常利益



親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益



セグメント別概況(連結) Overview by Segment



当社グループの事業セグメントは、「パワーエレクトロニクス機器事業」「モーション機器事業」「サポート&エンジニアリング事業」の3つで構成しております。

セグメント別の当第2四半期売上高構成比は、左グラフの通りパワーエレクトロニクス機器事業が前年同期比1.9ポイント減の36.5%、モーション機器事業が前年同期比2.2ポイント減の41.4%、サポート&エンジニアリング事業が前年同期比4.1ポイント増の22.1%となりました。

当上半期におけるセグメント別の概況は以下の通りです。

パワーエレクトロニクス機器事業

受注高 165億 17百万円
(前年同期比 10.7%減)

売上高 142億 48百万円
(前年同期比 10.8%減)

営業利益 2億 64百万円
(前年同期比 58.8%減)

社会インフラシステム部門と産業インフラシステム部門で大型案件が減少したことと、振動機・パーツフィード部門で電子部品業界向けパーツフィードが低調だったこと等により、受注高は165億17百万円(前年同期比10.7%減)となり、振動機・パーツフィード部門等での受注減の影響により、売上高は142億48百万円(同10.8%減)となりました。損益面につきましては、売上高の減少等により、営業利益は2億64百万円(同58.8%減)となりました。



クリーン搬送機器部門

精密なデバイス加工精度と高度なクリーン搬送技術が求められる半導体製造工程において、世界のトップブランドとして信頼を集めています。大気搬送技術はもちろん、独自開発のN2パージ機構を持つロードポートや真空搬送技術で、より微細化と歩留まり向上の要求が高まる半導体メーカーの期待に応えています。



振動機・パーツフィード部門

振動機器のトップメーカーとして、食品・化学・リサイクルなど、あらゆる業界へ振動コンベヤ等を提供。また、スマートフォン等に使われる微小部品からネジなどの大形部品まで様々な生産・加工ラインにおける部品供給・整列搬送システムを提供しています。



社会インフラシステム部門

上下水道の監視制御システム、道路管理用電気設備、さらには再生可能エネルギー発電装置を核とした小規模スマートグリッドシステムなどを提供。安心と快適、そして省エネルギーを実現しながら信頼できる社会インフラを支えています。



自動車用試験装置部門

スピーディーな開発や安全性が求められる自動車産業において、衝突試験装置等の各種実験装置・検証装置を数多く提供。ハイブリッド自動車・電気自動車など、時代の要求に応える最先端自動車の開発に貢献しています。



産業インフラシステム部門

地下街や大規模施設の空調設備に利用される冷凍機用モータ、液化天然ガスの汲み上げに使われるモータ、駐機中の航空機に電源供給する空港用電源車、産業施設・オフィスビル・レジャー施設等の常用・非常用・コージェネレーション用の発電機、様々な現場ニーズに応えるリフマブ®、最先端の金属素材開発を実現する真空溶解炉などを提供しています。

モーション機器事業

受注高 **159億 35**百万円
(前年同期比 24.0%減)

売上高 **161億 43**百万円
(前年同期比 11.1%減)

営業損失 **4億 3**百万円
(前年同期は営業利益10億58百万円)

大型搬送システム部門で大型案件が減少したこと、航空宇宙システム部門で修理部品等が減少したこと、及びモーションコントロール機器部門で電磁クラッチ・ブレーキが低調だったこと等により、受注高は159億35百万円（前年同期比24.0%減）となり、航空宇宙システム部門、モーションコントロール機器部門等での減少により、売上高は161億43百万円（同11.1%減）となりました。損益面につきましては、売上高の減少及び航空宇宙システム部門の新規案件の費用増等により、営業損失は4億3百万円（前年同期は営業利益10億58百万円）となりました。



航空宇宙システム部門

我が国唯一の航空機用電源システムメーカーとして、発電機をはじめとした航空機用電装品等を提供。また、ヘリコプター用レスキューホイストなど人命救助に役立つ製品からロケット用制御システムなど宇宙分野で活躍する製品まで幅広く提供しています。



モーションコントロール機器部門

産業用電磁クラッチ・ブレーキからOA機器用マイクロ電磁クラッチ、自動車用電磁クラッチ、自動車用制振装置、鉄道用ブレーキ、建設機械用コントローラ、産業用サーボアクチュエータなど、豊富なバリエーションを提供。様々な機器の動作制御に関わるモーションシステム製品を幅広く提供しています。



大型搬送システム部門

巨大な航空機の牽引をはじめ、乗客の乗り降り、貨物の搬入搬出を担う空港用地上支援車両など、空港運営に不可欠な重量物搬送を行う特殊車両を提供。さらに、港湾、倉庫、造船所における超重量物搬送で活躍する産業用特殊車両など、用途に特化した各種車両を提供しています。



プリンタシステム部門

アミューズメント施設や街中で見られるシールプリントやカードゲーム機、各種プリントサービスに使われている昇華型プリンタを提供。世界最速・最高解像度を実現し、世界初の両面プリンタやツインヘッド方式によるホログラムプリンタを開発するなど、プリント&ビジュアル分野の可能性を広げています。

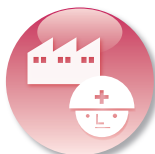
サポート&エンジニアリング事業

受注高 **107億 79**百万円
(前年同期比 6.6%増)

売上高 **86億 23**百万円
(前年同期比 14.6%増)

営業利益 **4億 35**百万円
(前年同期比 202.1%増)

設備工事の増加等により、受注高は107億79百万円（前年同期比6.6%増）、売上高は86億23百万円（同14.6%増）となりました。損益面につきましては、営業利益は4億35百万円（同202.1%増）となりました。



シンフォニアエンジニアリング(株)

当社製品の保守・サービス業務、公共、民間の電気工事、管工事、搬送工事等の設計施工業務及び情報機器（券売機、入退場システム等）の製造・販売・サービス業務を主要事業として展開しております。



(株)S & S エンジニアリング

病院内搬送をメインに、移載・収納・保管を含むトータルな搬送システムの導入計画立案から設計、施工、メンテナンスまで一貫した取組で、最適な搬送ソリューションを提供しています。

サポート&エンジニアリング事業は、上記2社の他、保険代理業、運送業、労働者派遣業や当社グループ内の経理・給与業務を請け負うシンフォニア商事(株)、ソフトウェア開発やOA機器の販売を行う(株)アイ・シー・エスにより構成されています。

建設機械用情報画像コントローラの納入開始

当社は、建設機械など産業車両関連製品のさらなる受注拡大を目指し、車両の操作性・安全性の向上を目的とした情報画像コントローラを開発し、油圧ショベル標準搭載用として建機メーカーに納入を開始いたしました。

2016年度より国土交通省は建設現場にICT（情報通信技術）を活用する「i-Construction」を推進しており、これに伴い建設現場の生産性や安全性向上への取組が活発化しています。本製品はこのような市場からの要望に応えた製品となっています。

本製品は、油圧ショベル車体の左右と後の3ヶ所に取り付けたカメラの映像をリアルタイムで変換・合成する画像処理技術により、上部から見下ろしたような映像として運転席のモニタに表示する「鳥瞰合成表示機能」を実現しています。これにより、運転者が周囲確認を一つの映像で簡単・確実に行うことができるため、作業効率と安全性の向上に貢献いたします。

今後は、油圧ショベルでの実績を踏まえ、大型機種への展開を図っていくとともに、さらなる安全機能として人体検知や距離測定のための画像認識を追加することにより、建設機械以外の産業車両にも応用してまいります。



情報画像コントローラ



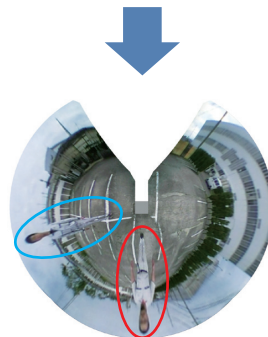
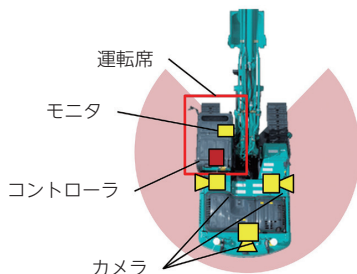
左



後



右



画像処理技術による鳥瞰合成表示

カメラ境界部の隙間をなくし、車体の近傍から遠方までをカバーしながら、画像合成時に発生する歪みを減らして全体を見えやすく表示します。

シンフォニアテクノロジー（タイ）（株）設立30年

当社の子会社であるシンフォニアテクノロジー（タイ）（株）は、本年6月8日に設立30年を迎えました。同社の前身であるタイパーツフィーダ（株）は、当社グループ初の海外生産拠点として1989年にバンコク市内に設立されました。当初は合併企業として発足しましたが、2003年に当社の完全子会社となりました。その後、生産量の増加に伴い、2008年にサムットプラカーン県のバンプー工業団地に15,000㎡の土地を取得し、新工場を建設して移転するとともに、社名もシンフォニアテクノロジー（タイ）（株）に変更しました。さらに2012年には、同敷地内に新工場棟を増設いたしました。

生産品目は、パーツフィーダの生産から始まり、振動機や建機用コントローラ、半導体搬送機器のロードポートなど幅広い製品を取り扱っております。同社は年々生産量を増やしており、2017年、2018年ともに過去最高の売上高、営業利益を更新いたしました。より一層の事業拡大を念頭に、生産量の増加に対応して工場の増設を行えるよう、さらに16,500㎡の隣接地を確保しています。

今後も当社グループの東南アジアにおける主要生産拠点として、さらなる技術レベルの向上と、生産品目、生産量の拡大に取り組んでまいります。



シンフォニアテクノロジー（タイ）（株）

連結貸借対照表 (2019年9月30日現在)

(単位：百万円)

資産の部	
流動資産	54,340
現金及び預金	5,120
受取手形及び売掛金	26,963
商品及び製品	1,310
仕掛品	12,078
原材料及び貯蔵品	8,327
その他	568
貸倒引当金	△28
固定資産	47,090
有形固定資産	31,121
建物及び構築物(純額)	10,258
土地	14,587
その他(純額)	6,276
無形固定資産	3,486
投資その他の資産	12,482
投資有価証券	8,950
その他	3,577
貸倒引当金	△44
資産合計	101,431

負債の部	
流動負債	42,639
支払手形及び買掛金	16,451
短期借入金	9,759
1年内返済予定の長期借入金	3,452
未払法人税等	176
製品保証引当金	174
受注損失引当金	1,712
その他	10,912
固定負債	15,920
長期借入金	9,735
役員退職慰労引当金	100
環境対策引当金	303
退職給付に係る負債	3,121
その他	2,659
負債合計	58,560
純資産の部	
株主資本	35,052
資本金	10,156
資本剰余金	452
利益剰余金	24,649
自己株式	△206
その他の包括利益累計額	7,818
その他有価証券評価差額金	3,704
繰延ヘッジ損益	0
土地再評価差額金	3,913
為替換算調整勘定	227
退職給付に係る調整累計額	△26
純資産合計	42,870
負債純資産合計	101,431

連結損益計算書 (2019年4月1日より 2019年9月30日まで)

(単位：百万円)

売上高	39,015
売上原価	31,376
売上総利益	7,638
販売費及び一般管理費	7,395
営業利益	242
営業外収益	176
受取利息及び配当金	140
その他	35
営業外費用	204
支払利息	72
関係会社株式評価損	55
その他	76
経常利益	214
税金等調整前四半期純利益	214
法人税等	100
四半期純利益	114
親会社株主に帰属する四半期純利益	114

連結キャッシュ・フロー計算書 (2019年4月1日より 2019年9月30日まで)

(単位：百万円)

営業活動によるキャッシュ・フロー	1,542
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,830
財務活動によるキャッシュ・フロー	△243
現金及び現金同等物に係る換算差額	7
現金及び現金同等物の増減額	△523
現金及び現金同等物の期首残高	5,643
現金及び現金同等物の四半期末残高	5,119

▶ 財務情報の詳細は、
当社ホームページIRサイトをご覧ください。



<http://www.sinfo-t.jp>

シンフォニアテクノロジー

検索

会社概要

会社名	シンフォニアテクノロジー株式会社
設立	1949年(昭和24年)8月
創業	1917年(大正6年)5月
資本金	101億5,696万円
従業員	3,741名(連結)
本社所在地	〒105-8564

東京都港区芝大門一丁目1番30号 芝NBFタワー

株式の状況

発行可能株式総数	116,000,000株
発行済株式の総数	29,783,495株(自己株式5,627株を除く)
株主数	13,677名
大株主(上位10名)	

株主名	持株数	出資比率	
		千株	%
日本マスタートラスト信託銀行(株) (退職給付信託口・(株)神戸製鋼所口)	2,979	10.00	
日本マスタートラスト信託銀行(株) (信託口)	1,072	3.60	
ダイキン工業(株)	1,017	3.41	
シンフォニアテクノロジーグループ 従業員持株会	870	2.92	
日本トラスティ・サービス信託銀行(株) (信託口)	801	2.69	
シンフォニアテクノロジー取引先持株会	785	2.64	
BNP PARIBAS SECURITIES SERVICES LUXEMBOURG/JASDEC/FIM/ LUXEMBOURG FUNDS/UCITS ASSETS	770	2.59	
大日本印刷(株)	732	2.46	
日本トラスティ・サービス信託銀行(株) (信託口5)	531	1.78	
ナブテスコ(株)	461	1.55	

- (注) 1. 日本マスタートラスト信託銀行(株)(退職給付信託口・(株)神戸製鋼所口)の持株数2,979千株は(株)神戸製鋼所から同信託銀行へ信託設定された信託財産です。信託約款上、当該株式の議決権の行使についての指図権限は(株)神戸製鋼所が保有しております。
2. 出資比率は自己株式(5,627株)を控除して計算しております。

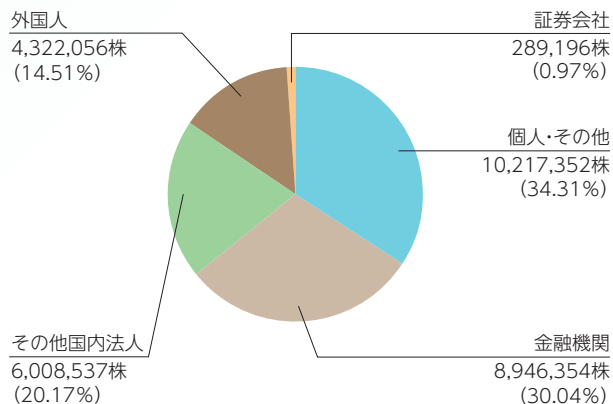
主要な営業所及び工場

支社	大阪、名古屋
支店	九州(福岡)
営業所	東北(仙台)、新潟、北陸(富山)、静岡、三重(伊勢)、中国(広島)
工場	伊勢製作所(伊勢、鳥羽)、豊橋製作所

主要な子会社の本社所在地

シンフォニア商事(株)(伊勢)
シンフォニアエンジニアリング(株)(伊勢、東京)
(株)アイ・シー・エス(伊勢)
(株)大崎電業社(東京)
(株)S&Sエンジニアリング(東京)
シンフォニアマイクロテック(株)(明石)
昕芙旋雅機電(香港)有限公司(中華人民共和国・香港)
昕芙旋雅機電(東莞)有限公司(中華人民共和国・東莞)
SINFONIA MICROTEC(VIETNAM)CO.,LTD.(ベトナム社会主義共和国・ハナム)
SINFONIA TECHNOLOGY(THAILAND)CO.,LTD.(タイ王国・サムットプラカーン)
昕芙旋雅商貿(上海)有限公司(中華人民共和国・上海)

所有者別株式分布状況



役員

取締役及び監査役

代表取締役会長	武藤昌三
代表取締役社長	斉藤文則
取締役	川久伸
取締役	平野新一
取締役	三木利夫
取締役	坂本克之
社外取締役(非常勤)	重河和夫
社外取締役(非常勤)	水井聡
監査役(常勤)	水百家俊次
社外監査役(常勤)	笹川浩史
社外監査役(非常勤)	下谷政弘
社外監査役(非常勤)	下谷收

執行役員

※専務執行役員	川久伸
※専務執行役員	平野新一
※常務執行役員	三木利夫
※執行役員	坂本克之
常務執行役員	仲真司
執行役員	堀田悟学
執行役員	永井博幸
執行役員	成久雅章
執行役員	花木敦司
執行役員	溝端浩輝
執行役員	中村俊樹
執行役員	千手裕治

- (注) 1. 当社は、重河和夫、水井 聡、笹川浩史、下谷政弘、下谷 收の5氏を(株東京証券取引所の定めに基づく独立役員として同取引所に届け出ております。
2. 上記※印の者は、取締役を兼務しております。

単元未満株式(1株~99株)買増及び買取請求のご案内

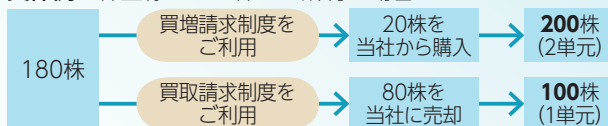
当社株式の証券市場での取引は100株単位となっており、単元未満株式を市場で売買することはできません。

当社では、「単元未満株式買増請求制度」または「単元未満株式買取請求制度」のいずれかの制度を選択してご利用いただけますので、ご案内申し上げます。

買増請求制度 株主様がご所有の単元未満株式と合わせて単元株式(100株)となるように、市場価格で当社から購入することを請求できる制度です。

買取請求制度 株主様がご所有の単元未満株式を、市場価格で当社に売却することを請求できる制度です。

具体例 株主様が180株をご所有の場合



単元未満株式の買増・買取、住所変更等のお申し出先について

株主様の口座のある証券会社にお申し出ください。
 なお、証券会社に口座がないため特別口座にて管理されている株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

特別口座から一般口座への振替えについて

株券電子化に際して、証券会社等に株券を預けられていなかった株主様の株式は、三井住友信託銀行株式会社の特別口座に記録されています。特別口座に記録されている株式につきましては、株主様が保有株式の管理を簡便にするため、証券会社等の口座(一般口座)に振替えいただくことをお勧めいたします。

ご所有の株式が特別口座に記録されているかご不明の場合や、一般口座への振替えのお手続につきましては、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお問い合わせください。

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 6月

基準日 定時株主総会 3月31日
期末配当金 3月31日
中間配当金 9月30日
(その他必要あるときは予め公告します。)

上場取引所 東京証券取引所 市場第一部

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

特別口座の 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社

郵便物送付先 〒168-0063
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先 TEL 0120 (782) 031 (フリーダイヤル)



シンフォニア テクノロジー 株式会社

〒105-8564
東京都港区芝大門一丁目1番30号 芝NBFタワー
TEL 03 (5473) 1800
<http://www.sinfo-t.jp>

UD FONT
見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。



この印刷物はFSC認証紙を使用しています。 この印刷物は植物油インキで作成されています。